

当事者活動支援の報告

津久井やまゆり園
令和5年度あおぞら委員会
生活1課 橋本 忠義
生活1課 赤津 正宗
生活2課 村瀬 遥香
地域サービス課 鈴木 剛史

1 はじめに

(1) 津久井やまゆり園当事者活動支援の報告をするにあたって

当事者活動の支援、というテーマで報告させていただくにあたり、令和5年度あおぞら委員会が津久井やまゆり園の代表として取り組みについてまとめ、令和5年12月の体験交流セミナーで発表を行った。これらの発表内容について、当事者活動支援そのものは津久井やまゆり園とその地域全体で取り組んでいることであり、利用者、職員、地域の方、関係する全ての方の活動報告であることを伝えておきたい。

(2) 令和5年度津久井やまゆり園の運営方針

令和5年度津久井やまゆり園の運営方針は運営計画に5か条で示している。その中でも、津久井やまゆり園が掲げている大きな目標は「本人の望む暮らしの実現を目指して」である。私たちは、ご本人の望む暮らしの実現を目指して、当事者活動支援に取り組んでいる。この報告では以下の7つに分けて伝えていきたい。

- ① 運営会議等への参加
- ② 相模湖地区社会福祉協議会との連携-さがみ湖地区社協だより配布ボランティア
- ③ 利用者自治会「ピザの会」
- ④ 園長との茶話会 出張プリティカフェ
- ⑤ 地域支援部の当事者活動支援
- ⑥ 相模原福祉オンブズマンネットワーク
- ⑦ 当事者団体・地域との交流

2 運営会議等への参加

津久井やまゆり園では、令和4年10月から当事者活動の一環として、利用者が運営会議へ参加している。運営会議においては、利用者に伝えるべき大切なこと、運営に関することについて確認し、ご意見を伺っている。例えば、服薬関係のひやりはっと報告について伝える際には、「園内で起きた事故について確認を行います。最近、お薬に関する事故が続きました。みなさんにご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。」と報告すると、利用者から「危ないから気を付けて欲しいです」と厳しい意見を聞くことができた。

その他にも、当園利用者自治会「ピザの会」と当事者団体の「にじいろでGO」との交流会を行なう予定があることを伝えた。当日の行事スケジュールを、「モニュメント

に献花をした後、みなさんとゲームをします。みなさんと食事をしたいとの希望がありましたが、どのように行いたいですか？」と伝えると、「ゲームは何をするんですか」や「体育館を使って、みんなで食事が出来たら楽しい」など、意見交換が行われた。この内容を基に FAX で当事者団体代表の当事者の方と打合せを行い、当日の内容に反映されている。7月の追悼式についても当日参加いただきたい事や当日の日中活動について昨年度と内容が変わることを伝えた。利用者ひとりひとりの参加意思を確認し、追悼式には希望される利用者の方のみの参加となっている。また、園祭実行委員会、納涼祭実行委員会にも参加いただき、模擬店内容、ステージ演目についてなどを検討していただいている。行事当日には、それらの検討に沿って、開会式・閉会式の挨拶など様々な面で役割を担っていただくことができている。

3 相模湖地区社会福祉協議会との連携

相模湖地区社会福祉協議会との連携・さがみこ地区社協だより配布ボランティアについての報告。令和3年8月、移転した当初より、津久井やまゆり園利用者が地域に出て活動できる取組みを、相模湖地区社会福祉協議会と連携して行えないかと模索していた。

令和4年春、さがみこ地区社協だより配布ボランティアの提案をいただき、津久井やまゆり園利用者が地域で行なうボランティア活動として取組みを始めている。さがみこ地区社協だよりは、季刊となっているので1年に4回発行、よってボランティア活動についても年4回となっている。活動は、日中活動の一環として取り組んでおり、「社協事務所に行って仕事の受注する⇒園に持ち帰っての封入作業、封筒への宛名つけ、準備が出来次第各送付先に訪問し配布する」までに取り組んでいる。初回の配布先は60件ほどであり、配布先が多く広域に渡っていた。2ヶ月ほどかけて配布完了したものの、日中活動中に向かうには時間を要することがわかった。相模湖駅前付近の配布先なども多く、歩ける距離ではないので公用車を活用し、半日に3~4件の配布ペースであった。2回目以降は配布地域と配布先を調整し、社協だよりが作成されてから時間が経たない時期(概ね受注から2週間程度)に配布を終えることができている。このボランティア活動には、本体施設利用者のみでなく、配布先によっては寸沢嵐地区日中活動支援センターファンファンの利用者にも依頼し、散歩中の途中に配布している。

取組みが始まった当初は訪問すると不思議そうな表情でお迎えしてくださっていた地域のみなさんも、今では、「こんにちはー。津久井やまゆり園ですー。」と入っていくと、今では「いつもありがとうございます」と笑顔で迎えていただけることが多くなっている。ボランティア活動を通して地域と園及び利用者との交流が行われていることを感じることができる。地区社協との連携、地域とのつながり、利用者の地域活動への参加が叶う取組みになっている。

4 利用者自治会「ピザの会」会長選挙 ピザの会

(1)ピザの会について

利用者自治会「ピザの会」は利用者主体の施設運営を推進することを目的としている。ピザの会の運営においては要項を策定し、要項に沿って活動を行っている。ひとりひとりに分かりやすい情報表示を行い、ひとりひとりの決定を尊重している。ピザの会で実際に出た企画の立案や実施は、利用者が自己実現または解決に向けて取り組めるよう、職員はサポートに努めている。活動としては、月に1回集まって、会合を開催することが主となる。その中では、園長の話やピザの会の会長の話、利用者の意見交換、企画の立案、問題の解決についての話し合い

が行われる。意見交換では プリティカフェの開催や、利用者全員で旅行が行きたい、など、様々な意見が出る。また、園長から各行事について開催予定等の連絡、神奈川県障害サービス課職員が来園した際に県から利用者への発信や聞き取りなどが行われた。その他には当事者の会との交流の機会にも活用されている。職員は、運営と進行を補佐するよう、参加する。ピザの会開催後、職員は、園への要望の集約などを行い、あおぞら委員会にて要望の整理と検討を行っている。

(2)選挙活動と役員選出

ピザの会は、会長を1名、副会長を2名以上、任期を2年として役員を選出する。役員は選挙で選出する。選出された会長と副会長を中心に活動を行う。令和5年4月から2期目の役員任期となっている。ピザの会の会長選挙がある時期になると、まずは選挙が行われることをピザの会の時間の場で伝える。立候補期間を経たのちに、各候補者は、ポスターを作成し園内へ掲示、立ち合い演説会で演説など選挙活動を行なう。立ち合い演説会は、当日視聴できない利用者には演説会の録画を見ていただく配慮を行っている。投票期間となると、投票箱を所定の位置に設置、利用者の投票結果によって役員が選出される。

令和5年3月の第2期ピザの会会長選挙には4名が立候補された。(令和5年12月8日の体験交流セミナーの報告会場では立会演説会の動画を紹介した。)照れくさそうに自分の名前を手短かに話した方、手話を交えて演説した方、人前は少し苦手だけど言葉でしっかり表現できた方、言葉はなくても発声と手を挙げて強い気持ちを表現してくれた方。4名それぞれ自分の想いを発信されていた。投票の結果は後日、正面玄関に選挙結果を掲示し、4月のピザの会にて正式に任命となった。

(3)ピザの会運営について～担当職員村瀬・赤津から～

ピザの会の運営担当職員が、ピザの会の運営をサポートする上で大事にしていることは、ポスターの作成と会場の設定である。ポスターの作成では、利用者が見やすくなるように、大きい字で作成し、フリガナをいれたり、季節に合わせて、イラストを入れたりするなどして配慮し、誰もが楽しくなるように工夫をしている。また、毎月、園長からはイラストやルビを振る等の配慮をした利用者向けの手紙を配り、手紙を見ていただきながら、利用者に伝えたいことを話している。会場の設定の際は、津久井やまゆり園では、車椅子を使用している利用者があるので、座席の配置など誰もが前に立って話す人を見られるように心掛けている。昨年までは活動室での実施であったが、今年からは皆の広場と外で開催し、広く見やすく会を運営している。雨の日は体育館などで実施している。

<村瀬>

ピザの会の運営をお手伝いして印象に残っていることは、利用者がたくさんの質問や意見を出してくれることである。今までピザの会をお手伝いしてきて、質問や意見が無かった会はなかった。大勢の皆さんの前で発表することは勇気のいることだと思うが、質問や意見を出してくれることでピザの会が充実した会になっていると感じている。利用者が何を思っているのか、職員に何を求めているのかを知ることが出来る会だとも思う。これからもピザの会を開くときは利用者さんからの質問や意見を大切に、今後の支援に繋げていくことを心掛けていきたい。

<赤津>

ピザの会に参加している利用者さんがいろんなことに興味を持っていることを知れることが印象的で、魅力的だと感じた。ピザの会では生活課ユニット内や日中活動の場面において、普段は聞けないことを発信される利用者がある。実際は何が好きで、何をしたいかをその場で聞けることができるので、とても素晴らしい会だと思う。これからも続けていきたいと思う。

5 園長との茶話会 出張プリティカフェ

津久井やまゆり園では開園当時から利用者意見箱を設置している。意見箱には自分で希望を書く方や、職員が代筆して書く方など多様な方法で投書が集まる。日中活動に対する要望や、外出した際にレストランで料理を運んできた猫型配膳ロボットが欲しい、など様々な意見を聞くことができる。意見のひとつに「園長とゆっくり話をする機会があったらいいのに」との希望があった。ピザの会にてその意見を報告し、検討を行なった。利用者の皆さんから「私も参加したい」「楽しそう」といった反応が多く聞かれたので、永井園長にその話を伝えると「皆さんが希望されるのであれば是非に」と言ってくれた。また別の意見では「お茶でも飲みながらゆっくり話が出来たらもっと楽しいのにな」とも聞かれており、これらの意見を実現するため「茶話会」の名称でお茶会を不定期で開催することとなった。

最初は園長が自動販売機で飲み物を購入し、園長室で飲み物とお菓子を食べながら話をする形で開催した。1回目、2回目に参加された利用者さんから「園長が飲み物をご馳走してくれるけどプリティカフェみたいに自分たちでお店が出来たら楽しいのにな」との希望が聞かれた。プリティカフェとは10年以上の歴史がある津久井やまゆり園で利用者が主体となって運営する喫茶店のことであり、年2回程度運営している。こちらのイベントも利用者の希望から始まったもので、皆さんが楽しみにしているイベントとなっている。この意見もピザの会にて話し合ってもらい、茶話会の際に出張プリティカフェとの名称で喫茶店を開店することになった。園長との茶話会は、参加される利用者、カフェ店員になって注文から提供、片づけまでを行う利用者などに分かれて実施する。カフェ店員として参加される利用者も最後は一緒になって園長との話に花が咲いている様子がしばしば見られる。

茶話会の実施は、利用者の意見が具体的な形となって実現している1つの事例となった。茶話会を続けていく中で「今度は園長と食事をしながら話をするのもいいね」といった希望も聞かれている。次は、園長とのランチミーティングの実施に向けて話を進めていきたい。

6 地域支援部の当事者活動支援

津久井やまゆり園には3つの外部事業所があり、それぞれ「コカ・コーラの会」「りんごの会」「みらい利用者自治会」との名称でそれぞれ自治会を運営している。一部、形となっている事例について報告させていただく。

<そよかぜ>

根小屋地区日中活動支援センター「そよかぜ」では毎月1回「りんごの会」という名称の利用者自治会を開催している。りんごの会では「BBQがしたい」との意見が挙がると、「園長や第三者委員の方を招待してみんなで楽しみたい」との希望が重なり、皆さんが手作りで招待状を作成して渡すにいった。園長は運営側で参加されることとなった。「かかし作りが楽しかったからまたやりたい」。相模川自然の村野外体験教室で開催されているかかしフェスティバルに毎年参

加している。利用者みなさん毎年いろいろな案が出され、独創的なかかしが完成する。かかしを見に行くのも、お礼で頂くお米を使つてのカレーパーティーもどちらも楽しみにされている。「テレビで見たふわふわのパンケーキが作ってみたい」。色々調べて皆さん一生懸命作って見たものの・・・いつも通りのパンケーキが完成している。またチャレンジしたいと話していた。「いつも同じお弁当じゃなくてコンビニとかで好きな物を選んで食べたい」。最初はドライブなどで皆さんにコンビニに買い物に行ってもらっていたが、ゆっくり選べないなどの課題が出てきた。近隣の老人施設にセブンイレブンの移動販売車が訪問販売をしているとの話を聞いて該当のセブンイレブンと交渉することでそよかぜの駐車場での移動販売が実現した。拘りが強く店舗での買い物が難しい利用者や、車いすで買い物が大変な利用者がゆっくりと買い物を楽しむことが出来るようになった。利用者の意見から具体的に実現した事例となった。

外部事業所の各自治会で共通していることがある。それは毎月開催した中で利用者が出してくれた意見を出来るだけ次の月などに実現させていることである。自分たちの意見が実現することの体験を重ねてもらふことで様々な思いが伝えられるよう支援している。

7 相模原福祉オンブズマンネットワーク

(1) 相模原福祉オンブズマンネットワーク

津久井やまゆり園は相模原福祉オンブズマンネットワーク「ねっとさがみはら」へ加入をしている。このオンブズマンネットワークには相模原市内で 21 事業所が参加しており、各事業所の担当者はオンブズマン協力員を担う。協力員は、オンブズマンと協力して、利用者の声、想いを聴けるように努めることとなる。津久井やまゆり園からはあおぞら委員の担当者が、オンブズマン協力員会議、オンブズマン運営委員会に参加し、外の目からみたオンブズマンの視点の大切さ、交流、連携を深められるようにしている。

当園では、2 名のオンブズマンが月に 1 回訪問され、利用者面談、職員面談、実際の活動の様子の見学をして下さり、こちらからは 1 ヶ月間の活動報告などを行なっている。活動の様子見学の際にはその場その場で利用者に声をかけてもらい、想いを聞いてもらうようにしている。本来の活動としては、部屋を設定した面談が主となるようだが、当園では活動場面の見学をあえて多くしている。このことは、協力員会議で挙げた他事業所オンブズマンからの意見を参考にしている。意見を基にオンブズマンと打合せをし、オンブズマンとの対話ができる方に偏りがないよう配慮した結果である。

(2) 当事者交流会

令和 5 年 11 月 28 日、オンブズマンネットワーク当事者交流会が開催された。相模原市内オンブズマンネットワーク参加の 21 事業所中 17 事業所が集まったの開催となった。コロナ禍の期間はオンライン開催を行っていたため、対面での開催は 4 年ぶり。当事者、支援員、オンブズマンが総勢 110 名以上集まる大規模な交流の場となった。他事業所の利用者の中には、自分の事業所の支援員よりも、他事業所の支援員や、初対面のオンブズマンと率先してコミュニケーションもとる方も多くいたことが印象に残っている。交流の場を企画することの大切さを感じた。演奏を聞いたり、演奏に合わせて踊ったり、オンブズマンと一緒にクイズに答えたり、と交流会の 3 時間、笑顔絶えず、所属事業所関係なく楽しめる時間となった。

8 当事者団体・地域との交流

(1) 当事者団体との交流

①「にじいろでGO！」交流会

令和5年6月24日に「にじいろでGO！」との交流会を当園体育館で実施した。交流会当日までは、日程調整、交流会の内容、お弁当についての金額相談などを、代表の女性と直接FAXで行なっている。にじいろでGO！のみなさんは福祉関係の支援者の方もいるものの、日程や内容調整から当事者が中心に活動を行っていることが印象的であった。当日は、代表の女性を中心に、ゲームを複数種類実施する。輪投げ、オリジナルビンゴ、くじびき等、にじいろでGOのみなさんの素敵な進行に合わせて、笑顔絶えない1日になった。

②「ブルースカイクラブ」神奈川県当事者巡回

令和5年10月当事者団体「ブルースカイクラブ」に所属する男性が、神奈川県内の当事者巡回にて、当事者からの視察として来園された。当日はピザの会の開催日であったため、懇談の場として参加していただき、自身の生活経験について話していただいた。この方はグループホームで生活されていたが、(ご本人の言葉で)「少し窮屈で」自分には合わないと感じていた。そのため、グループホームを退去し、家族と暮らしていた1軒家でのひとり暮らしをしている、という体験談であった。この男性は、「ひとり暮らしでは気苦労することも多いが、趣味も充実し、楽しいですよ。」「とにかくね、あいさつが大事、そういうのはこっちからしないよとだめ。待たずに自分からあいさつすると、変わるよ。」「旅行なんか行った後ね、おみやげなんか配ってみるのも喜ばれたよ。」等、自身の経験からくるアドバイスを利用者へと送っていた。利用者からは、一人暮らしはどうか、グループホームでの生活はどうか、といった、普段のピザの会では挙がってこないような、将来の生活を見据えた質問が出ていた。当事者の経験談を聞くことで、利用者が将来について考えるきっかけとなった。

(2) 地域との交流

①千木良中央子ども神輿来園

8月19日、地元の千木良中央自治会子ども神輿が来園した。津久井やまゆり園に子ども神輿が来園するのは8年ぶりとなった。かわいい子ども神輿に利用者さんも大喜び、利用者さんは子ども達と一緒に神輿を担いで、鎮魂のモニュメントの周辺を楽しそうに回っていた。

②「当事者目線の障害福祉推進条例のことを学ぼう！」に参加

9月23日、神奈川県庁本庁舎において、にじいろでGO！の主催による「当事者目線の障害福祉推進条例のことを学ぼう！」が開催された。当園のグループホームの利用者2名が参加した。みなとみらいが見えるレストランで美味しいランチを食べた後、初めて訪ねた神奈川県庁本庁舎前で記念撮影。そして学ぶ会では、みんなで体操をしたり、条例について学んだり、みんなの生活の困りごとなどの意見交換を行なった。

③千木良地区運動会に参加

10月8日、千木良小学校で開催された千木良地区運動会に利用者さんと職員で参加した。地域の皆さんと様々な競技と一緒に参加できて、とても楽しい時間を過ごすことができた。

④令和5年度相模湖地区総合防災訓練に参加

10月22日、令和5年度相模湖地区総合防災訓練に利用者さんと職員で参加した。一時避難場所となっている津久井やまゆり園に集まった地域住民の皆さんと一緒に、地域の避難所となっている千木良小学校へ歩いて避難した後、千木良小学校で備蓄品の確認、水消火器を使った消化訓練、AEDの取り扱い訓練等を行なった。今後も万一の災害発生に備え、地元自治会の皆さんと防災に係る連携強化を図っていく。

⑤津久井支援学校の生徒さんとブルーベリー畑の清掃を実施

10月27日、津久井支援学校で取り組む近隣のブルーベリー畑の管理について、当園の利用者さんも一緒に活動に参加することになり、生徒さんと一緒にブルーベリー畑の草取り活動を行った。翌年の6月頃には沢山のブルーベリーが実り、みんなで収穫することが今から大変楽しみである。同年11月からは相模ダムや相模湖公園の清掃についても生徒さんと一緒に活動を行うことに繋がっている。

⑥津久井支援学校の生徒さんと相模湖公園の清掃を実施

11月21日、津久井支援学校の生徒さんと相模湖公園の清掃を行った。紅葉の見頃を迎えた相模湖公園には沢山の落ち葉があり、相模湖公園管理事務所の皆様にもご協力いただきながら、津久井支援学校の生徒さんと共同で落ち葉を集めた。多くの皆さんがご利用いただく公園を綺麗にすることができて、とっても嬉しい気持ちになれた。

9 ポニー乗馬体験 いろいろなひととの交流

令和5年12月1日に相模湖地区社協、ハーモニセンターの協力により、津久井やまゆり園が乗馬体験の場になるイベントが当園にて開催することができた。当園利用者の方、千木良小学校の生徒さん、先生、当園の職員、社協の方、みんな、ポニーの背中で揺られた。利用者の方は乗馬が難しいかと想像していたが、大変多くの利用者の方に乗馬体験をしていただけた。テレビかながわ、読売新聞の取材も入っており、当園から見れば、様々な方と利用者のみなさんが交流することができた日となり、地域から見ると、津久井やまゆり園が、いろいろなひと同士が交流することができる場となった日であった。令和5年度津久井やまゆり園の運営方針のひとつ、「地域に愛され選ばれる施設」が叶ったような、そんな嬉しい日となったのではないかと感じる事ができた。

10 まとめ

この実践報告では、令和5年度津久井やまゆり園で行なった当事者活動支援について報告させていただいた。津久井やまゆり園が掲げている大きな目標は、パンフレットの表紙や、ホームページのトップページにも載せているとおり、「本人の望む暮らしの実現を目指して」である。これからも、この目標に向け、施設で完結しない支援を目指し、地域での活動をより充実させて支えていく。